

新年度を迎え、皆様にはますますご清祥のことと存じます。

昨年度も院内外の先生方のご高配を賜り、京都府内でも指折りの症例数を維持することができ、「いい病院 2015」に掲載されました（近畿 22 位、京都府 1 位）。昨年を振り返りつつ詳細な成績を検討し、今後の方向性ととも「annual report」としてご報告させていただきます。

お気づきの点がございましたら、忌憚のないご意見を頂戴したいと存じます。 心臓血管外科 部長 小林豊

冠動脈バイパス術

弁膜症や大血管手術との合併手術が多くなっております。また、近年のエビデンスから今後のバイパス手術の増加が見込まれますので、患者様の状態に合わせたグラフトデザインや術式を考慮していきたいと思っております。腎機能低下症例で造影剤使用がためられる患者様のご紹介に対しても、入念な管理で透析を免れて良好な結果を残しました。on pump、off pump、低侵襲心臓手術と当科では病態に合わせた治療方法の選択が可能となっております。

弁膜症手術

高齢化に伴い、大動脈弁狭窄症に対する手術はここ数年増加の一途をたどっております。また、他院からの再手術患者様も多く治療させていただき、良好な成績となっております。僧帽弁手術に対しては積極的に MICS 手術を導入しており、京都府内で MICS 手術が施行できる施設は当院のみとなっております。昨年の report では拡張型心筋症や虚血性心筋症に伴う 2 次性僧帽弁閉鎖不全症に対する治療が課題であるとの見解を出しましたが、院外再生医療グループとの提携が可能となりました。今後は補助人工心臓も含めた心不全外科を積極的に展開していきたいと考えております。

胸部大動脈手術

胸部大動脈瘤は解離や真性瘤も含めて、その数は年々増加傾向にあります。ステントグラフトの技術の進歩やオープンステントグラフトの導入などにより、徐々に治療適応や方針が変化してきています。急性大動脈解離につきましては救命の手術となります。術前破裂

の 2 例を失いましたが、その他の手術死亡は認めず、死亡率 9.5%（全国平均 15%）と昨年同様良好な成績となっております。真性瘤は術前破裂の 2 例を失いましたが、定例手術での死亡は広範囲胸腹部大動脈瘤の 1 例のみとなっております。術前破裂例は血行動態も不安定で、一般にも成績は非常に悪いといわれていますが、救命できる例も多く、今後も積極的に取り組んでいきたいと考えております。ステントグラフトでは胸部・腹部ともに死亡や重篤な合併症を起こす例は認めず、その数も倍増いたしました。

その他心臓大血管手術

肺梗塞に対する血栓内膜摘除術が 1 例でありました。当科では手術方法の工夫により一昨年は非常に高い救命率となっており、PCPS 導入例であっても救命は十分に可能と考えておりますので、お気軽にご紹介いただければ幸いです。その他ペースメーカートラブル（感染・穿孔）や心臓外傷にも迅速に対応させていただきました。

末梢血管手術

重症下肢虚血は非常に予後が悪く、入院も長期化することが多い疾患です。その治療の目標は「患者様の苦痛を取る」ことであり、状態に応じた治療方法を実践いたしました。透析シャントも増加し、入院透析も可能なため他院入院患者様のシャント作成も転院という形で受け入れさせていただきました。腹部大動脈瘤につきましては胸部同様ステントグラフトが増加しました。昨年も開腹手術、ステントグラフトともに待機手術での死亡は認めず、状態に合わせた治療方法を自信をもって提示させていただけます。腹部大動脈瘤の治療件数は 60 例と昨年の倍の症例となりました。

2014

I	冠動脈バイパス術	18
A	単独（オフポンプ）	9
B	単独（オンポンプ）	9
1	+弁膜症	
2	大動脈弁	1
3	僧帽弁	1
4	三尖弁	0
5	その他（二弁、大血管など）	3
II	弁膜症	53
A	大動脈弁	11
B	僧帽弁	11
C	三尖弁	0
D	連合弁膜症（2弁以上）	12
E	Benall	4
F	大血管	15
III	胸部大動脈瘤（真性瘤 or 慢性解離 or 破裂）	19
V	急性大動脈解離	21
VI	その他心臓手術（心臓切除、左室形成、心臓腫瘍など）	8
VII	先天性心疾患	1
VIII	胸部ステントグラフト	15
IX	腹部ステントグラフト	41
X	末梢血管手術（下肢バイパスなど）	17
XI	透析シャント	32
XII	その他（2011はAAA含む）	47
	腹部大動脈瘤人工血管置換術	21
	開心術、胸部大血管 計	135
	総計	293

手術外活動

Wet Labo

昨年も全職員を対象に、豚の心臓を用いて解剖や手術の勉強会を行いました。毎年 50 人を超える職員にご参加いただき、当科の診療内容について更なる理解を深めていただきました。

学術活動

当科での経験や実績を国内外の各学会に発表、討論し、多くの新しい知見を得ることができました。特に二年に一度行われる大動脈の祭典である Aortic Symposium で当科での手術経験の発表の機会をいただきました。

また論文として各雑誌に掲載させることができました。

学会発表（研究会・講演会除く）

2014/2/20

第 44 回心臓血管外科学会 総会 熊本
小口径生体弁による大動脈弁置換術
小林豊 新垣正美 鈴木晴郎

2014/4/3

22rd Annual Meeting of the Asian Society for Cardiovascular and Thoracic Surgery
Istanbul, Turkey
Cost Evaluation of Aortic Valve Replacement in High Risk Patients with an Aortic Valve Stenosis
Yutaka Kobayashi, Masami Shingaki, Haruo Suzuki

2014/4/24

American Association for Thoracic Surgery, Aortic Symposium 2014
New York, USA
ABERRANT LEFT SUBCLAVIAN ARTERY ASSOCIATED WITH KOMMERELL DIVERTICULUM
Yutaka Kobayashi, Masami Shingaki, Haruo Suzuki

2014/5/22

第 42 回日本血管外科学会 総会 青森
左鎖骨下動脈が起始するKommerell憩室に対する手術時の工夫
小林豊 新垣正美 鈴木晴郎 川上敦司

2014/7/12

日本循環器学会 近畿地方会 大阪
弁膜症セッション 座長 小林豊

2014/7/12

日本循環器学会 近畿地方会 大阪
冠動脈バイパス術後の僧房弁閉鎖不全症に対して心室細動下に施行した MICS 手術
川上敦司 小林豊 鈴木晴郎

2014/9/5

15th Congress of Asian Society for Vascular Surgery
Hong Kong, China
Current Result of Patch Repair for Saccular Aneurysms of the Aortic Arch
Yutaka Kobayashi, Atsushi Kawakami

2014/11/29

日本循環器学会 近畿地方会 大阪
植え込み型除細動器リード感染による右室穿孔に対してデバイス抜去を行った 1 例
川上敦司 小林豊

論文掲載（査読のある雑誌のみ）

Masami Shingaki, Yutaka Kobayashi, Haruo Suzuki
A case of acute aortic insufficiency due to severe rheumatoid arthritis, showing progression in two weeks
Cardiovasc Diagn Ther 2014;4(3):267-269

Masami Shingaki, Yutaka Kobayashi, Haruo Suzuki
Acute pericarditis with cardiac tamponade induced by pacemaker implantation
Asian Cardiovasc Thorac Ann. 2014 May 13.

両側肺動脈に高度狭窄をきたした肺動脈肉腫の 1 例
新垣正美 小林豊
胸部外科 2014;vol.67 No.7:575 -577

総括

昨年は学会より心臓血管外科修練基幹施設に認定されることで、心臓血管外科専門のみならず心臓麻酔専門医の取得も可能となり、施設としての成長を感じることができた一年でありました。今後もこれまで以上に高品質の手術、またより重症な患者様も断ることなく受け入れていける医療を目指していきます。治療方針の決定に関しては主治医および外科双方の意見が必要であるとの観点から、ガイドラインにおいてもハートチームの重要性が叫ばれております。先生方のハートチームの一員として、ご紹介の有無にかかわらずお気軽にお問い合わせいただければ幸いです。また患者様におかれましても、外科医の意見を聞ける場を増やしていけたらと考えております。